

「あなたの願いどおりに」 —マタイによる福音書講解説教 69—

詩篇 第67篇 1節～4節  
マタイによる福音書 第15章 21節～28節

説教 岡村 恒牧師

「女よ、あなたの信仰は見あげたものである。あなたの願いどおりになるように」。もし、私たちの口から出た言葉に対して、神のひとり子がそうお答え下さるとしたら、これは驚くべき事です。

主イエスはこの日、ユダヤの領域を出て異邦人の地に行かれました。それは、清い民だと自認していたユダヤ人が軽蔑していた地、神の命とは無縁で、滅びるべき人々の地でした。そこに来られた主イエスのもとへ、大勢の人々がつめかけました。みんな、自分自身の問題を抱え、何とかしてその解決を得たいと願っていました。自分だけは、この苦勞から解放されて、幸せになりたいという叫びが聞こえてきます。

「主よ、ダビデの子よ、わたしをあわれんでください。娘が悪霊にとりつかれて苦しんでいます」(22節)と言ってひとりの女が叫びつづけながらついて来ました。「悪霊にとりつかれた」と言う他に説明できない、人間の力ではもうどうしようもない問題が、この女性に重くのしかかっています。この女は、心がかきむしられるような思いで、娘が救われる日を待ち望んできました。叫び続ける母親は、神に見捨てられたという絶望を噛みしめていました。

ところが主イエスは最初、この女の訴えに少しもお答えになりません。弟子たちの求めに対して、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外の者には、つかわされていない」(24節)と冷たく答えられるのみでした。ところがこの女は、それでも主イエスに近寄り、主イエスの前に身を投げ出すようにして拝して言ったのです。「主よ、わたしをお助けください」(25節)。今ここでも、同じことが起こっています。私たちも自らの惨めさをかみしめながら、主の前に身を投げ出して助けてくださいと叫んでいます。

イエスは答えて言われました。「子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない」(26節)。神の子、ユダヤ人には、満腹するようにと天のパンが用意されている。確かに主イエスは5千人を、また4千人をわずかのパンで満腹させられました。主イエスが祝福したパンは、確かに人を満たしてあふれ出しました。私がその食卓を用意しに来た。そう言われる主イエスの口から、しかし、異邦人を軽んじる「小犬」という言葉が響いています。

私がこどものころ、我が家に「クナリオン」

という犬がいました。これは今朝の御言葉に出て来る「小犬」というギリシヤ語の言葉です。ある時、まだ小犬だった我が家のクナリオンを家の中に入れると、本当に食卓の下に来て、上から落ちて来る食べ物をずっと待っていました。そして子供たちを満腹にしたパンくずを、小犬は嬉しそうに口にしました。

私には、テーブルにつく資格などない、しかしその下で、こぼれ落ちてくる恵みを受けたい。この女は主イエスの拒絶を前にして、それでもなお主イエスに食い下がりました。「主よ、お言葉どおりです。でも、小犬もその主人の食卓から落ちるパンくずは、いただきます」(27節)。

これは、パンの意味を知っている者の言葉です。救い主の前で、この自分がいったいどういう姿をしているのかを知っている者の言葉です。主イエスがお与え下さる命のパンを頂くこと他に、どこにいても、何を口にしても、私たちの救いはありません。この一点を信じる者の口に、この告白があふれてくるのです。

ここにパンがある。命のパンがある。このパンさえあれば、もう他には何も入らない。いや、他の何があってもそれは役に立たない。この女性の口から響きだしたのは、神が与えて下さる信仰でした。この自分はいったい何者か、主イエスとはいったいどういうお方か、この女は、はっきりと告白しています。この告白は、神が、私たちの口に入れて下さるものです。そして主イエスはこの信仰告白に対して、「あなたの信仰は見あげたものである。あなたの願いどおりになるように」。とお答え下さるのです。

主の前にへりくだって、主の言われることを素直に受け止め、しかもその上で主の食卓が持つ特別な力、神の支配の力を信じた者の姿がここにあります。そしてこの信仰をご覧になって、主イエスはお喜びになります。信仰のある所に、神のみ力、神のご支配が生き生きとその力を発揮するのです。

この食卓にこそ本当の命のパンがある。このパンさえ戴けたら、もう他には何も入らない、必要としない。今日も私たちは、この信仰をもって食卓を囲んでいます。そしてこの信仰を、主なる神は、「見上げた信仰」と喜んで下さり、祝福して下さいます。

(記 岡村 恒)